

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)グランアッシュ長岡京 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能	住戸部開口T-2の建具使用	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	界壁 壁厚180mm	3.0	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	-	3.0	-	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.7</b>
2.1 室温制御		2.2	0.50	3.0	1.00	
1 室温	-	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	-	1.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.5</b>	0.25	<b>3.1</b>	1.00	<b>2.6</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率	昼光率 3.7%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	庇とカーテンの使用	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	-	1.0	0.25	1.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.4</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	建材にF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		2.0	0.40	2.6	0.38	
1 換気量	必要換気量の1.2倍	3.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能	-	3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	-	1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御	-	1.0	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.7</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	Gbitクラスのブロードバンドを利用可能	3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観	-	1.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	-	3.0	-	-	-	
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	風除室の一次扉と二次扉の間を離して設置	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理の容易な建材を採用	4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給湯管に架橋ポリ管、汚水排水管に硬質ポリ塩ビ管、耐火二層管	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		2.8	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり			-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		2.8	1.00		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30		-	2.3
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1	エネルギー			0.40			3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	3.0	0.20		-	3.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEF=0.88	4.4	0.50		-	4.4
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価						
	4.1 モニタリング	-	3.0	-		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-		-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
LR2	資源・マテリアル			0.30			2.8
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	節水型衛生陶器を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60		-	2.6
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法により躯体と仕上材が容易に分別可能となっている	4.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50		-	
	3 冷媒	R32冷媒採用	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境			0.30			2.9
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2概算値94%達成	3.2	0.33		-	3.2
2	地域環境への配慮		2.8	0.33		-	2.8
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		2.7	0.33		-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
	2 振動	-	-	-		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-		-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		1.6	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70		-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)グランアッシュ長岡京 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-													
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	○		
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	○	○	-	○	-	○		○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	1.0		-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	3.0	-	2.0	-	-	-	-	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		2.0	-	1.0	2.0	2.0	-	-	2.0	2.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無															
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	1.0	-	-	2.0	-	-	1.0	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分 窓システムU値 4.4	外皮UA値 0.9	η AC 2.8	η AH 0.6	
屋光率 3.7%				
自然換気有効開口面積率 0.0%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡						
天井高	2.3 m						
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%				
想定耐用年数	0年						
想定必要間隔	20年						
想定必要間隔	10年						
想定必要間隔	10年						
階高	3.5 m						
壁長さ比率	55.0%						
床荷重	2900 N/m2						

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

外構緑化指数	76%	建物緑化指数	0%							
空地率	0%	水平投影面積率	16%	地表面対策面積率	25%	舗装面積率	16%			
BPI/BPIm	-	断熱等性能等級	等級3 相当							
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%					
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%					
BPI/BPIm	非住宅	-	住宅	1.04	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	176%	隣棟間隔指標Rw	0.09						
地表面対策面積率	43.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	30㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	30 m	基準高さHb	30 m				
緑地	61㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡